

## 令和元年度病虫害発生予察特殊報第2号

令和元年11月7日

愛知県

- 1 病虫害名：ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (J. E. Smith)
- 2 発生地域：知多地域
- 3 発生確認の経過

侵入警戒のため、知多地域に設置（10月7日から10月23日）したフェロモントラップにおいて、本種雄成虫の翅に似た斑紋を持つ個体が捕獲された。農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼したところ、ツマジロクサヨトウであることが確認された。

成虫の捕獲を受け、11月1日にトラップが設置されていた地域の周辺に栽培されている飼料用トウモロコシを調査したところ、ツマジロクサヨトウの疑似幼虫を採取した。本幼虫について名古屋植物防疫所に同定依頼したところ、ツマジロクサヨトウであることが確認された。

本県では、フェロモントラップによる成虫の発生は確認されていたが、幼虫の寄生が確認されたのは今回が初めてである。

- 4 国内における発生状況

幼虫の発生を確認している府県：鹿児島、熊本、宮崎、長崎、沖縄、大分、佐賀、高知、茨城、岡山、福岡、千葉、山口、愛媛、福島、神奈川、三重、広島、大阪、青森

- 5 本種幼虫の形態及び特徴

- (1) 終齢幼虫の体長は約40mmで、頭部に網目模様があり、頭部縫合線に沿って淡色になるため逆Y字状の見える斑紋を持つ（図1・2）。また、尾部に黒色斑点を持つ（図1）。
- (2) これまで国内で幼虫の寄生が報告された農作物は、サトウキビ、飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムであるが、その他のイネ科、アブラナ科、ウリ科、キク科、ナス科、ナデシコ科、ヒルガオ科、マメ科など広範囲の作物に寄生することが知られている。
- (3) 暖地に適応した種で、熱帯では年4～6世代発生する。暖地を除く地域では越冬することができない。

- 6 防除対策

- (1) 国内では幼虫が飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムで多く見つかることから、これらの作物については、特にほ場を定期的に見回り、早期発見に努める。
- (2) 本虫と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室まで連絡する。
- (3) 本種の発生が確認された場合、ツマジロクサヨトウに対する農薬登録はないが、愛知県は植物防疫法第29条第1項の規定により薬剤散布の指導を行う。本種に

対して使用できる農薬については、農林水産省HPを参照する（注）。

注： [http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/tumajiro.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)

(4) なお、収穫期の飼料用トウモロコシについては、本虫の分散を防ぐため、早期収穫に努めるとともに、速やかに収穫後の残渣をすき込むよう耕起する。

## 7 連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室

電話：0561-62-0085（内線 471）



図1 飼料用トウモロコシで採取されたツマジロクサヨトウ幼虫

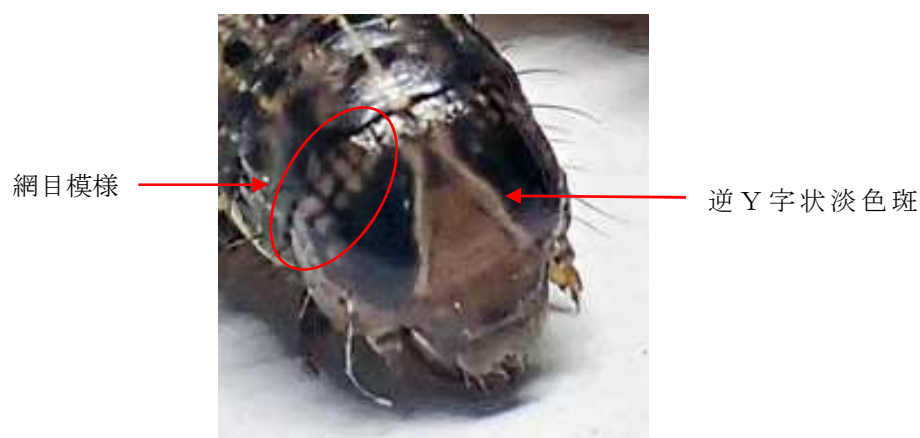


図2 ツマジロクサヨトウ幼虫頭部